

MOVE YOUR HEART!

進路通信第1号

武義高生のみなさん、入学、進級おめでとうございます。

新入生の皆さん、プレザーには慣れましたか。快晴だった入学式から1週間がたちました。オリエンテーションではいろいろなことが話されたことと思いますが、「大人の手帳」をうまく活用して記録と記憶の両方に残せるといいですね。高校生活では勉強（知識）だけでなく、たくさんの情報が飛び交い、それをコントロールする能力が求められます。そういうことが得意でない人もなんとかして自分流に「処理」していかなければなりません。いろいろなことを自力でこなしながら日々を送るのが高校生です。高校生活を終えて卒業するとき、みなさんは「成人」です。新鮮でやる気のある今の気持ちのまま、充実した毎日を本校でおくり、たくさんの成功と失敗を経て大人の自覚を持って自分の進路に進んでください。進路のORTでお話したとおりです。早くいい友人ができるといいですね。

2年生のみなさん、その自覚は育っていますか。後輩が入ってきたことでもう甘える立場ではないことがわかったと思います。2年生の1年間はピンチでもあり、チャンスでもあります。「コロナ禍」が薄まることで様々な機会が増えます。学校の中核を担う学年として、大きく自分を解放し、昨年出来なかったことを含めてすべてのことに思い切りトライしてください。振り返ったときに「2年生の1年間で一番充実していた」と言えるような人は人生の勝利者であることでしょう。

3年生のみなさん、始まりましたね。進路決定に向けた最後の1年です。などという野暮な言い方はやめましょう。十分自覚しているはずですから。まずは「広く」、次に「深く」、そして最後は「強く」がこの1年のキーワードです。どういうことかわかりますか。考えてみてください。いろいろな活動のすべてに「高校生活最後の」という枕詞がつくのは事実ですが、気負いすぎずにスタートしましょう。昨年度先輩たちは見事に自分の夢を実現して羽ばたいていってくれました。難しいことはありません。まずは自分と向き合うことからです。最高に充実した1年にしましょう。我々は最後までつきあいますよ。

《当面の進路に関係する行事》

4/14（金）～27（木）教育相談機関（5分短授業）

20（木）2、3年生 スタサポレクチャー

5/ 2（火）3（水）3年生 全統共通テスト模試

8（月）課題テスト

13（土）3年生 全統記述模試

《模試について》（一部は昨年度既報）

1、2年生が受験する「ベネッセ学力総合テスト」（進研模試）は、自分の学力の到達度を全国規模で確かめる試験です。学校の授業進度もこの模試をある程度意識しています。普通科の生徒は全員受験します。例年7、11、1月に実施されます。自分の学力の到達度を知り、日々の勉強の励みにしてほしいと思います。2年生は2月に初めての「全統共通テスト模試」があります。

3年生ではほぼ毎月（それ以上に）模試があります。

早速5月早々には河合塾による「第1回全統共通テスト模試」があり、続いて「第1回全統記述

模試」があります。3年生が受験する模試は全国の受験生の多くが受験します。これまでと違って学力上位校の生徒や浪人生も受験します。出題も共通テストや大学入試をにらんで完成度が高く、難易度も高いものとなります。当然、合格可能性の判定は厳しく出ます。本校をはじめとする現役生が痛い目に遭う模試です。加えてこの時期は部活動の大会と重なるため、自宅解答の人も多くなります。ですがこのくらいの試練はあたりまえ。冷静に現在の位置を知り、受験本番に向かって上昇していけばよいのです。一喜一憂しないで、まずは力試しです。

全統記述の次週の「ベネッセ共通テスト模試」と6月末の「ベネッセ総合記述模試」は学力をつけるための模試です。幅広くオーソドックスな出題で、「記述模試」でも文系に対応した数学の問題を選択できます。理系の人も国語を解いてください。1, 2年生の「学力総合テスト」の延長で、判定よりも勉強のための模試と考えてください。

夏休み前のこれら4つの模試と、夏の第2回全統共通テスト模試は普通科全員が受験します。なんとなく受験するのではなく、目的を理解してトライしてください。科目をしぼるのは早いですよ。

模試の受験には**HBの鉛筆、鉛筆削り、消しゴム、時計**が必要です。

計算や下書きにはシャーペンが使えますが、マークには使用不可です。記述模試も受験届のマークは鉛筆です。これは**共通テストや大学入試も同じです**。持っていない人は必ず準備をしておきなさい。1年生の人もいずれは必要です。

マーク方式の模試では自己採点も必須です。自己採点をなめてはいけません。10点ちがうと1ランクちがってきます。結果が返ってきたとき、自己採点とぴったりだといいいことがありますよ。

《雑感》

FC岐阜を応援している。岐阜県内の42市町村すべての支援を受けて戦っている（全市町村に支援されているのはJリーグのチームではFC岐阜だけだ）。J2への復帰を目指してJ3リーグでがんばっている。が思い通りには行かない。負けるときは負ける。

負けには3種類あると思う。「納得のいく負け」、「悔しい負け」、「腹の立つ負け」だ。

一つ目は実力差が明らかであって、戦う意志をもって必死でがんばっても歯が立たなくて負ける場合だ。例えば大谷選手と対戦したらバットが3回宙を切った時点で終わってしまう。走り込みの成果もくそもない。仕方ないのだ。叶わぬまでもバットをカー杯振ったことを褒めるしかない。相手がすごかったのだ。

二つ目は戦った結果だ。互いがベストを尽くして最後まで競り合う。勝敗はわずかなことで決まる。「時の運」があったかなかったか。死力を尽くしても勝てないこともある。「あのシュートが決まっていれば」。悔しくてたまらないがそれがスポーツの常。応援する側としてはやせ我慢で勝者を称え、敗者に心からの拍手を送る。一番悔しいのは選手だから。

三つ目は戦う意志が感じられないまま負ける場合だ。プロなのに気のないプレーをされたら腹が立つ。一生懸命やっているんだろうけど、本当に全力なのか疑いたくなる。勝てるはずなのに。J3に落ちてからの岐阜ではこれを感じるがあった。

今年の岐阜はいい。すごくいい。よく戦っている。出来ることをすべてやっている。応援したくなるチームだ。選手は力の限り戦い、負けると本当に悔しがっている。

運動系の部活動をしてきた人にとって今度のインターハイ予選が最後の大会、という人は多いだろう。後輩は勝利を見学に来るのではない。必死で戦う先輩を応援に来るのだ。どんな選手も必ずどこかで負ける。全力で戦った敗者には惜しみない拍手が送られることだろう。